

TACHIUO TENYA MS がまかつ タチウオテンヤMS

●すでにテンヤロッドの定番となりつつある三石忍プロデュースの「タチウオテンヤMS」。中弾性素材と高弾性素材をミックスした操作性と感度に優れたプランクス、これに高強度、高感度のスーパートップを搭載、糸が絡みにくいスパイラルガイド設定のテンヤタチウオ最強モデル。L~Hまで全5機種そろっており、今や全国的な釣法となっているテンヤタチウオの釣り場別、様々な釣法に対応可能。「バットがしっかりして穂先は柔軟、MSという竿をひと言で表せば硬と軟の絶妙なマッチング。これが私のこだわったところだ」と三石さん。



▲アイテムはL~Hまでの5種



▲穂先は高強度、高感度のスーパートップ採用

▲ガイドはスパイラルセッティング

タイプ	標準全長 (m)	希望本体価格 (円)	標準自重 (g)	仕舞寸法 (cm)	使用材料 (%)	モーメント	継数 (本)	先径 (mm)	錘負荷 (号)
L	1.8	38,500	120	135.0	C99.9 / G0.1	5.3	2	0.8	20~50
ML	1.8	38,500	120	135.0	C99.9 / G0.1	5.3	2	0.8	20~50
M	1.8	38,500	123	135.0	C99.9 / G0.1	5.6	2	0.9	20~50
MH	1.75	38,500	123	130.0	C99.9 / G0.1	5.5	2	0.9	30~60
H	1.73	38,500	128	128.0	C99.9 / G0.1	5.7	2	1.0	30~60

※C=カーボンファイバー、G=グラスファイバー。※モーメント=標準自重(kg)×竿尻から重心までの長さ(cm)。※上記の釣竿にはエポキシ樹脂を使用

●取材しながらも乗船者の釣りをしっかり見つける



●この日は掛ければ良型だった

5タイプの調子比較

●「テンヤ釣りの竿選びは水深や潮流に関係なく、硬めの竿で掛けていく方、軟らかめの竿で乗せるように掛ける方とそれぞれ。自分の釣り方と好みに合った竿が一番です。MSは5タイプそろえていますから、この中にあなたに合ったベストロッドがきっとあるはずだ」

★バイブレーション系など鋭く誘って素早く掛けるタイプ。ガチガチの先調子ではなく1.5:8.5調子で、止めたときのアタリもよく出る



★操作性重視で、竿全体に張りを持たせた深場や速潮にも対応するモデル。東京湾のテンヤ釣りにパイロットとして使用するのにもいい



★ど真ん中の硬さで、どんな状況でも使えるオールラウンドモデル。操作性、フッキングパワーも十分備わっている



★浅場の使用だけでなく、この日ように食い渋り時にはしなやかに誘って、小さなアタリを取っていく状況にもマッチ



★20~30号といった軽めのテンヤ使用時、極浅場でのテンヤ釣りに向く。柔軟な調子ながらフッキングパワーも十分持ち合わせている



※テンヤ40号使用(ウネりや潮の流れにより多少の誤差があります)

テンピンタチウオ、ライトアジ、イサキ、アマダイなどにも応用可能です。何本かさろえておくといろんな意味で便利ですよ」と締めくくって当日の釣りを終えた。

★取材の合間を縫って竿を出し、すぐさまヒットさせるのはさすが

三石忍プロデュース がまかつ タチウオテンヤMS L~Hまで5タイプのラインアップ きっと見つかるあなたのベストロッド

★しっかりメタル級をキャッチ

★トゥイッチとバイブレーションを駆使してアタリを出す

●春から初夏はややムラがあった東京湾のタチウオ、梅雨時を過ぎれば一気にベストシーズンに入るはず。とくにテンヤ釣りファンにとってはこれからが出番と思っているに違いない。今回はテンヤ釣りの最強ロッド「タチウオテンヤMS」についてプロデュースも手がけた三石忍さんに語っていただいた。

この日は乗船者全員がテンヤ釣り。反応こそあるもののタチウオの活性は低く、アタリを取るのに苦労していた。三石さんはひとりの解説が終わったから釣り開始。いち早く硬めの調子だとアタリを出せないと見た三石さんは、MLを使用して1メートル前後をサクッと2本。「一時は8:2、9:1調子の竿で掛けていく釣りが流行しましたが、今日のような渋い日はなかなかアタリを出せません。状況に応じて使い分けることが必要なんです」と三石さん。「この竿はテンヤ釣りだけでなく、ジグやワインドなどのルアー、そのほか」

三石忍さんが釣行した時点で、東京湾のタチウオはやや不安定な状態。どちらかといえばテンピン釣り優勢ながら、テンヤで粘れば何本か型を見られるという時期にあった。「シーズンはこれからです。今日はテンヤ釣りファンのために「タチウオテンヤMS」、5タイプそれぞれの調子などを紹介しつつ、合わせて釣りも楽しんでみたいと思います」と三石さん。乗船したのは周年タチウオ乗合を出す三浦半島新安浦港のこうゆう丸。当日は7時20分出船、13時納竿のショート乗合船で、猿島へ走水沖のポイントをメインに狙った。三石さんは5タイプすべてを手に取り、40号のテンヤを付けて調子や特性を見せるのが当日の主旨である。